

平成24年度

長久手市市民意識調査

ダイジェスト版

長久手市では、「第5次総合計画」（平成21年3月策定）並びに今後4年間の重点的な取り組みをまとめた「新しいまちづくり行程表」（平成24年6月策定）にもとづき、「幸福度の高いまち＝日本一の福祉のまち」の実現に向けて、まちづくりを進めています。

今回の市民意識調査は、今後の市政を進めていくにあたり、これまでの市政全般の成果を検証し、今後の市政運営や今年度に策定する個別計画に反映するため、平成24年9月に実施しました。

この調査は、市内にお住まいの満18歳以上の方の中から、無作為に選んだ5,000人の方にご協力をお願いし、2,662人の方からご回答いただきました。（宛先不明者を除く回答率53.5%）

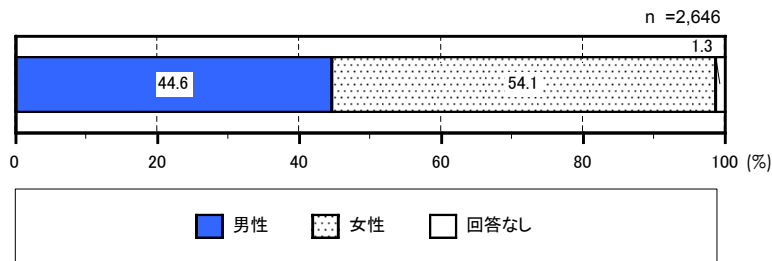
このほど調査結果がまとまりましたので、概要をご報告します。

ご協力いただいたみなさまには厚くお礼申し上げますとともに、市政に対する一層のご理解とご協力をお願いいたします。

回答していただいた方の属性

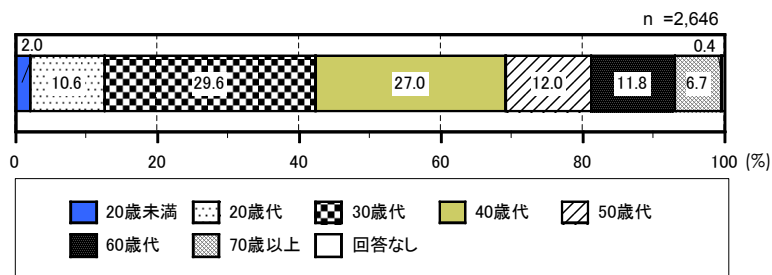
【性別】

回答していただいた方の性別は、「女性」がやや多くなっています。



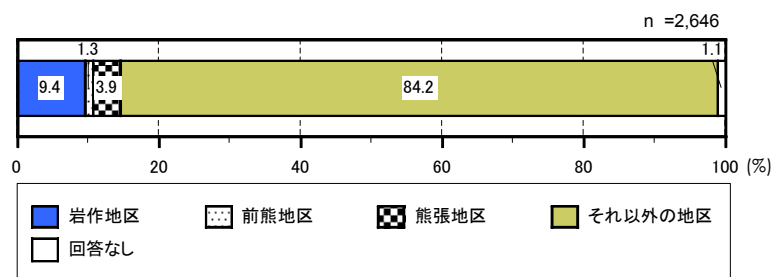
【年齢】

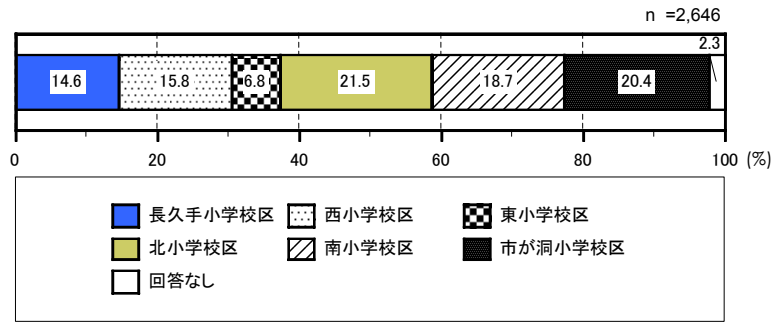
回答していただいた方の年齢は、「30歳代」、「40歳代」が最も多く、それぞれ3割近くとなっています。



【住まい】

回答していただいた方のお住まいは、8割以上の方が「それ以外の地区」となっています。小学校区でみると、「北小学校区」、「市が洞小学校区」、「南小学校区」の順で多くなっています。

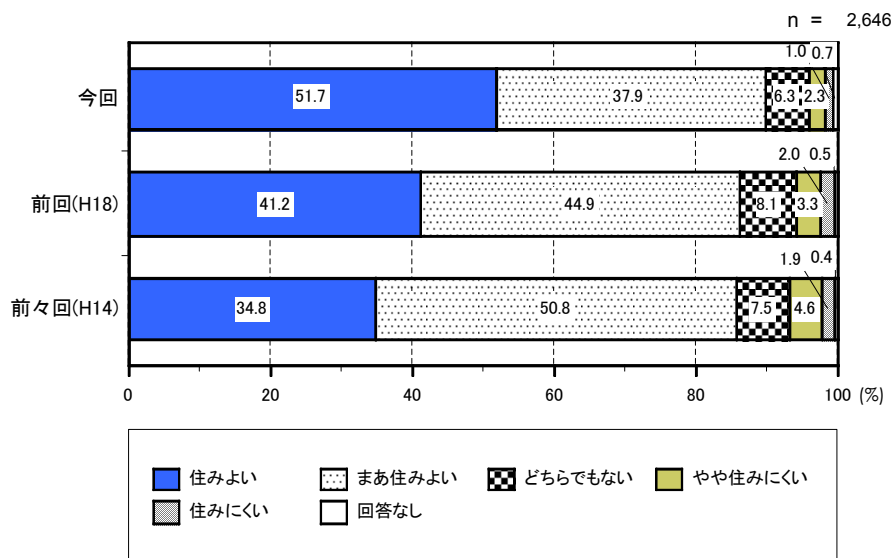




住み心地

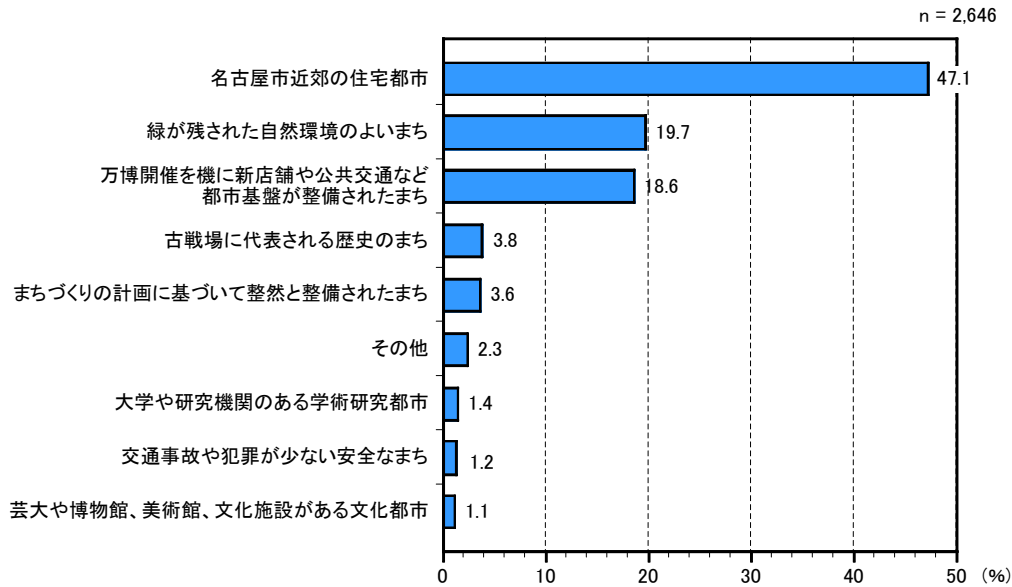
「長久手市を住みよいまちと思うか」について尋ねました。「住みよい」と「まあ住みよい」を合わせると9割近くの方が、長久手市を“住みよい”と回答しています。

前回調査（平成 18 年度）と比較すると、「住みよい」と答えた方が 10.5 ポイント多くなっています。

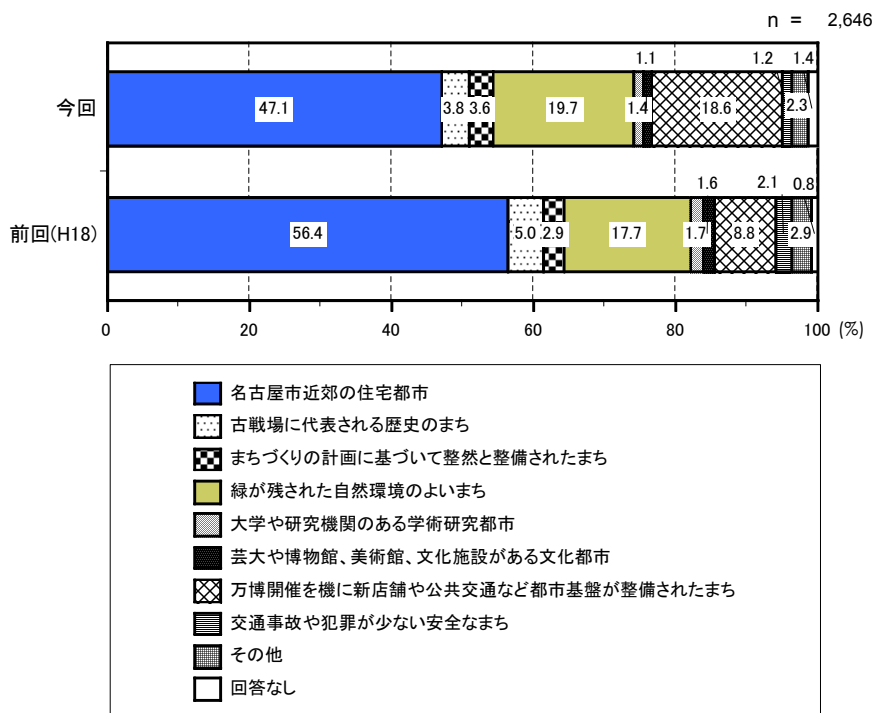


まちの印象

長久手市の印象について尋ねました。半数近くの方が「名古屋市近郊の住宅都市」というイメージを持っており、2割近くの方が「緑が残された自然環境のよいまち」、「万博開催を機に新店舗や公共交通など都市基盤が整備されたまち」というイメージを持っています。



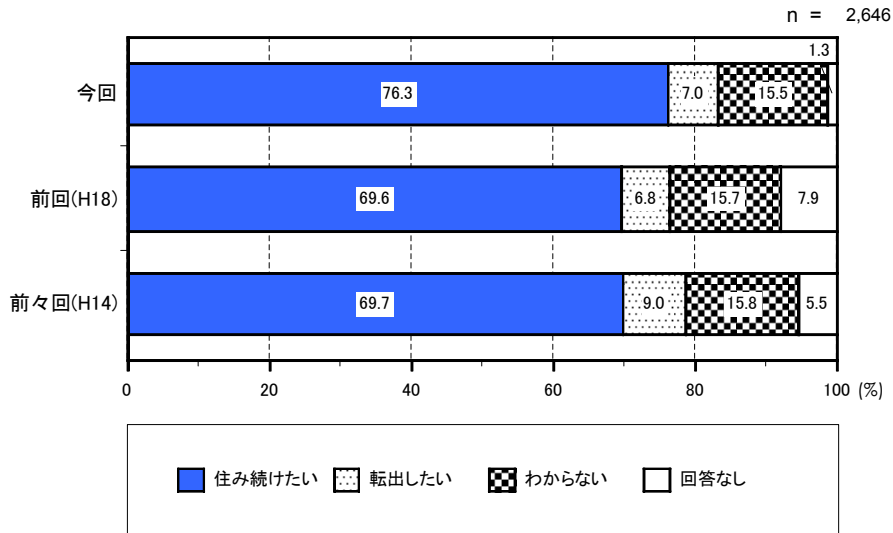
まちの印象について前回調査と比較すると、「名古屋市近郊の住宅都市」が10ポイント近く少なくなった一方、「万博開催を機に新店舗や公共交通など都市基盤が整備されたまち」というイメージが10ポイント近く多くなっています。



定住意向

「今後も長久手市に住み続けたいか」を尋ねました。「住み続けたい」と回答した方が4分の3以上を占めています。

また、前回調査と比較すると、「住み続けたい」が6.7ポイント多くなっています。



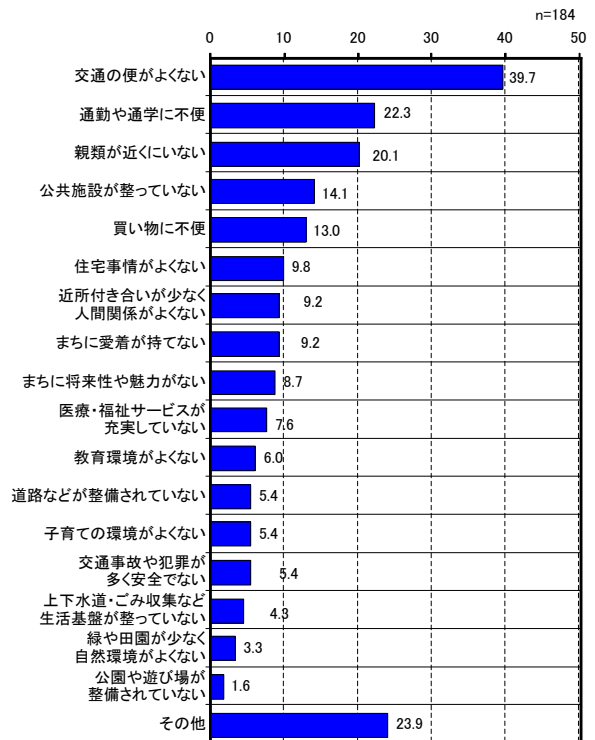
「住み続けたい」理由は、「緑や田園が多く自然環境が良い」が最も多く、「交通の便がよい」、「買い物に便利」、「住みなれていて愛着がある」などが続いています。

一方、「転出したい」とされた方の理由は、「交通の便がよくない」が最も多く、「通勤や通学に不便」、「親類が近くにいない」などが挙げられています。

【住み続けたい理由】

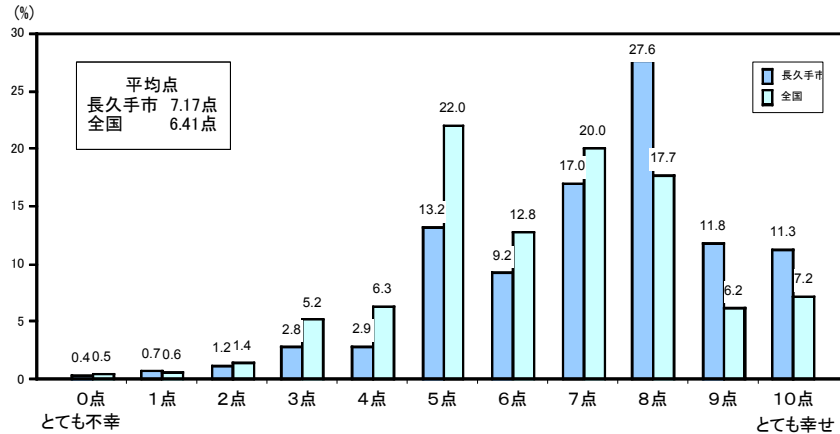


【転出したい理由】

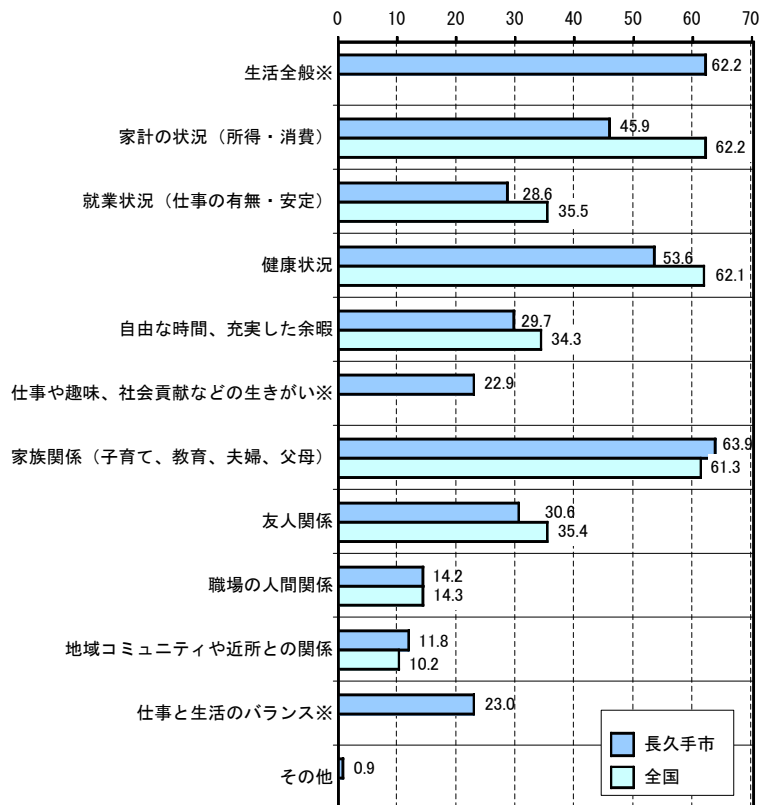


幸せ感

現在の幸せ感について0～10点の間で評価していただいたところ、「8点」が3割近くで最も多く、「7点」が続いています。内閣府が実施していた平成23年度国民生活選好度調査と比較すると、総じて長久手市の方が幸せ感が高くなっています。

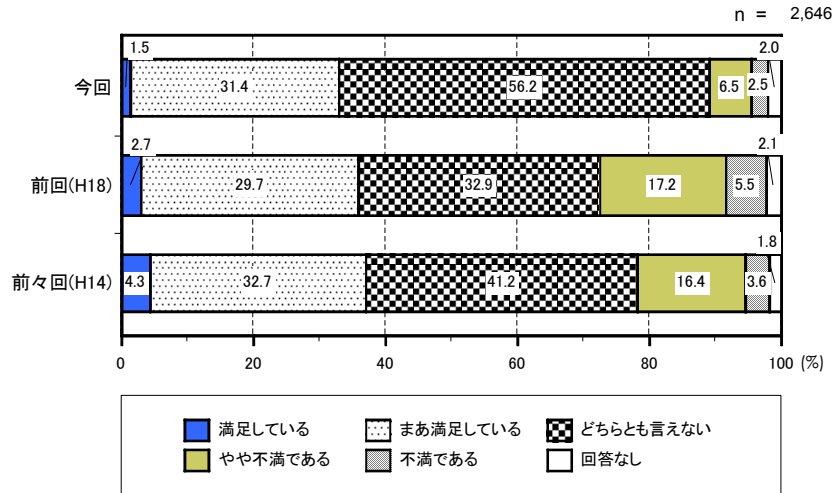


幸せ感を判断する際に重視した基準について尋ねたところ、「家族関係（子育て、教育、夫婦、父母）」が最も多く、「生活全般」、「健康状況」などが続いています。

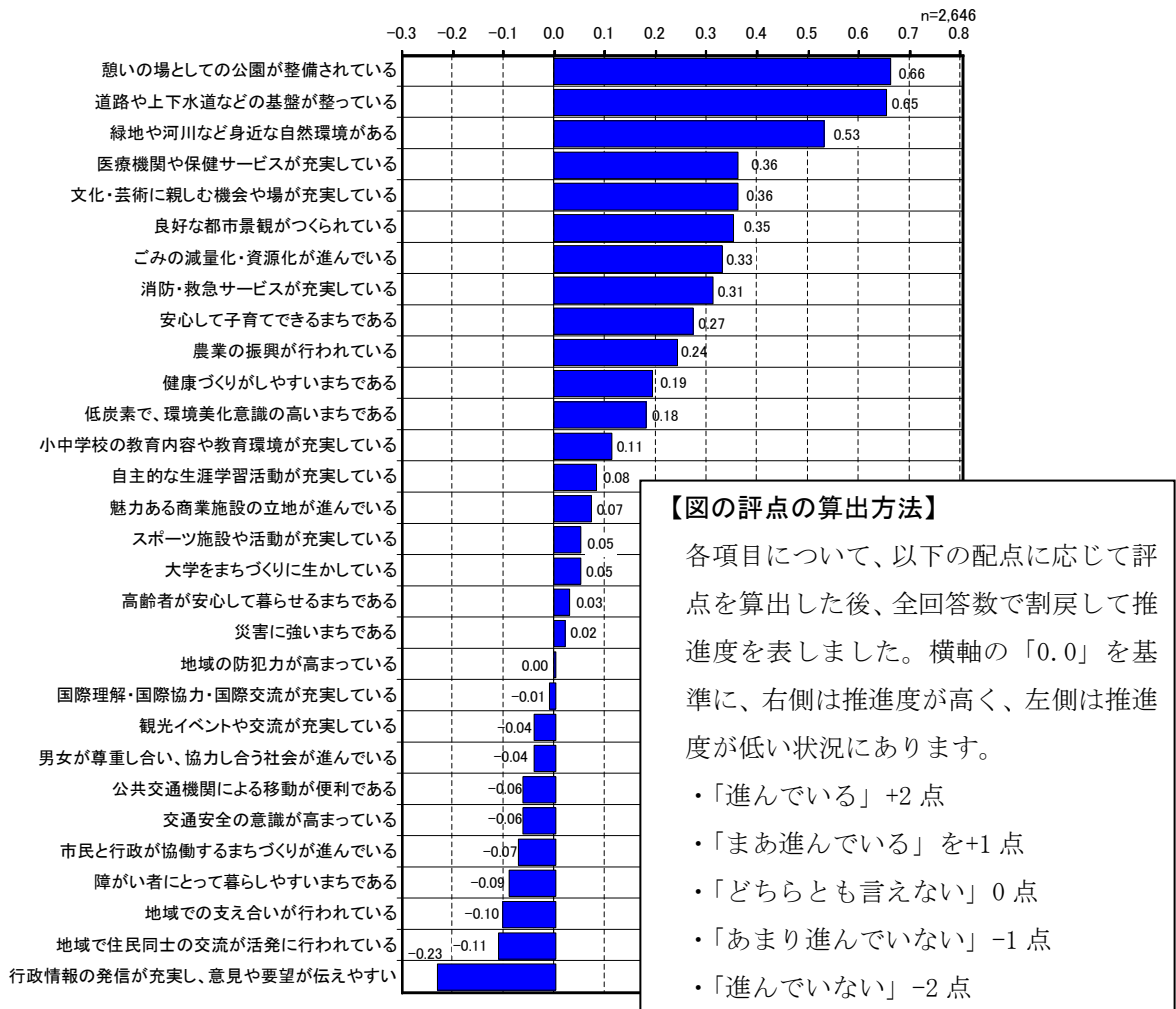


施策の推進状況の評価

市政全般の満足度について尋ねました。「どちらとも言えない」が半数以上を占めています。前回調査と比較すると、「どちらとも言えない」が20ポイント以上多くなっている一方、「やや不満である」は10ポイント以上少なくなっています。



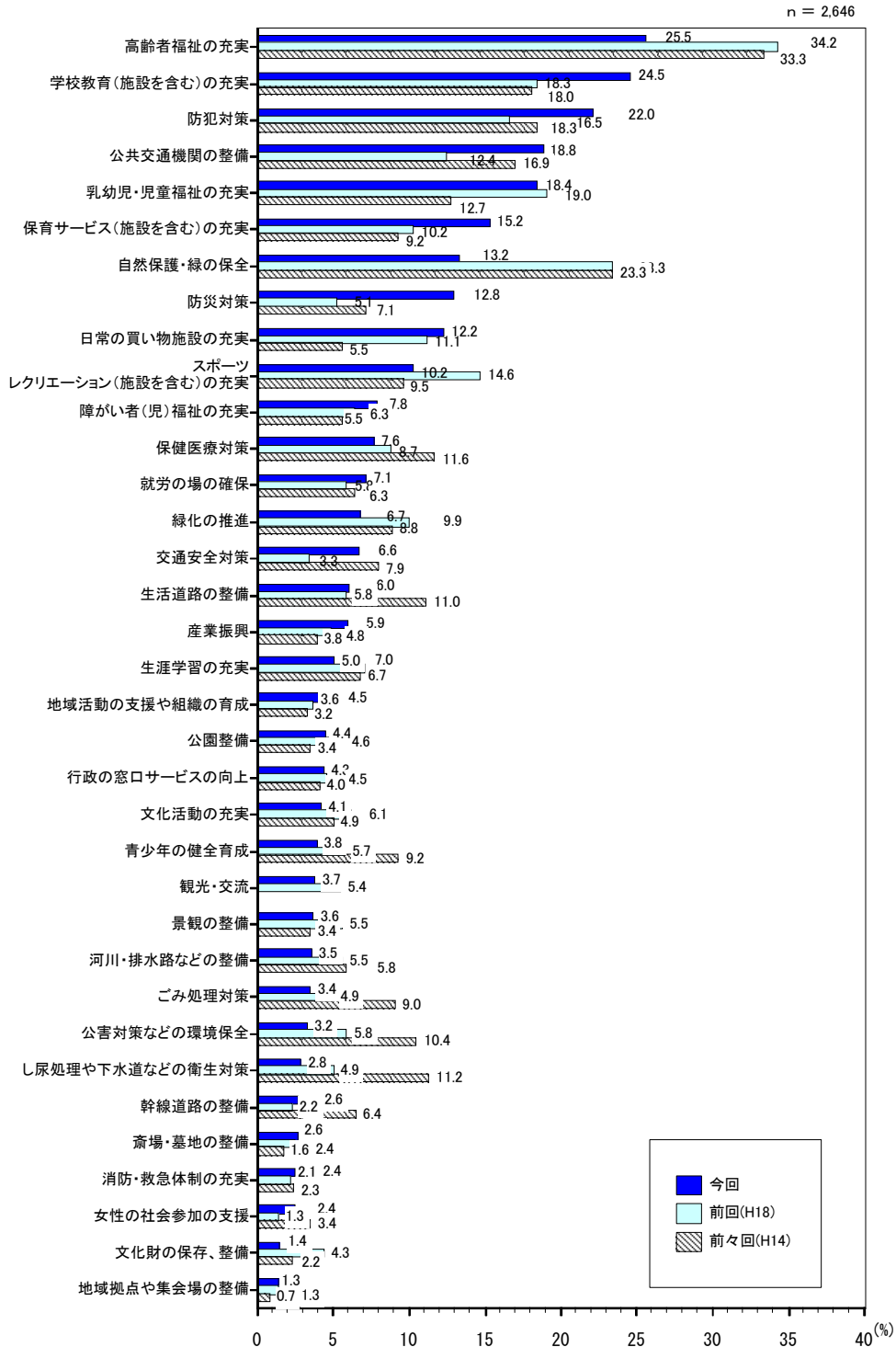
現在、長久手市が取り組んでいる30施策の推進度を5段階評価で尋ねたところ、評価が高い施策として、「憩いの場としての公園が整備されている」、「道路や上下水道などの基盤が整っている」、「緑地や河川など身近な自然環境がある」などが挙げられています。



今後の重点施策

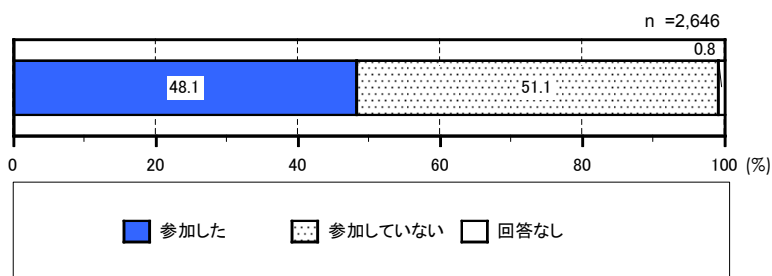
今後、長久手市が力を入れていくべき施策を尋ねたところ、「高齢者福祉」が最も多く、「学校教育（施設を含む）の充実」、「防犯対策」、「公共交通機関の整備」、「乳幼児・児童福祉の充実」などが続いています。

前回調査と比較すると、「高齢者福祉の充実」が10ポイント近く少なくなっている、一方、「学校教育（施設を含む）の充実」、「防犯対策」、「公共交通機関の整備」などは5ポイント以上多くなっています。



地域活動の参加

過去3年間の地域活動への参加状況を尋ねたところ、半数近くが「参加した」と回答しています。

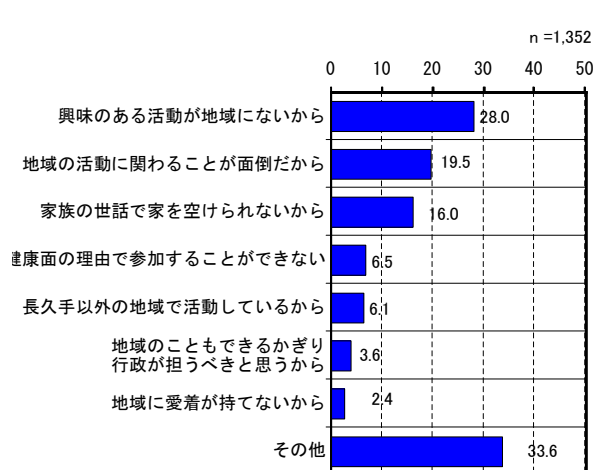
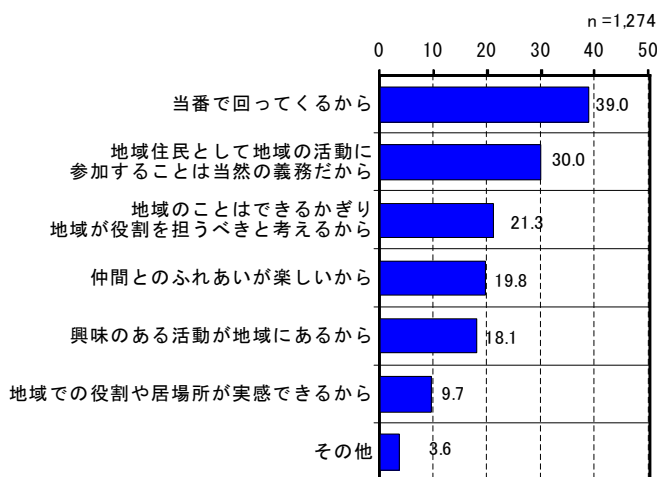


参加した理由は、「当番で回ってくるから」が最も多く、次いで、「地域住民として地域の活動に参加することは当然の義務だから」となっています。

参加していない理由は、「その他」が最も多く、その内容は「最近引っ越してきたのでわからない、自治会に加入していない」などとなっています。

【参加した理由】

【参加していない理由】



参加した活動の内容は、「区や自治会の活動」が最も多く、「祭りなど伝統的な行事」、「子ども会など子育てに関する活動」などが続いています。

